

チリ政治情勢報告（1月）

平成29年2月

1. 概要

（1）内政では、第6州及び第7州を中心とする大規模な森林火災により、甚大な被害が発生した。

（2）外交では、藺浦外務副大臣がチリを訪問し、ムニョス外務大臣、アボット国家検察庁長官、アンドラーデ下院議員及びコート下院智日友好議連会長らとの会合を行った。

（3）2月1日発表のAdimark GfK社調査による1月のバチェレ大統領の支持率は27%（前回比+1ポイント）、不支持率は68%（前回比-3ポイント）であった。

2. 内政

（1）第6州及び第7州を中心とする森林火災の発生

1月上旬よりチリ各地において森林火災が発生し、下旬までには第6～7州を中心とする7つの州（第4州、首都圏州、第5～9州）にまで拡大し、30日時点で36万6519ヘクタールが影響を受けた。今般の火災により、2月2日時点で死者11名、被災者6,162名、倒壊家屋1,551棟の被害が発生（いずれもONEMI（国家緊急対策庁）発表）。この火災を受け、日本は緊急援助物資（消化剤）の供与を行った。また、中南米諸国を中心とする各国からの支援が行われた。

（2）2017年大統領選挙に向けた動き

ア 6日、急進社会民主党（PRSD）がギジェル上院議員を同党の大統領候補として正式に支持することを発表した（なお「ギ」上院議員は無所属だが、これまでも議員としてPRSDの推薦を受けてきた）。今後、PRSD内で「ギ」議員と共に大統領選挙に向けた取り組みが加速される。

イ 14日、民主主義のための党（PPD）は大統領候補選出のための党内選挙を実施し、ラゴス元大統領（昨年9月に大統領選に立候補する意向を表明）がタルー下院議員を破りPPDの大統領候補として当選した。

ウ なお今後はピニェラ前大統領が3月中旬を目処に大統領選挙に立候補するか決定する見込み。4月末までには社会党（PS）における大統領候補が選出される予定。7月2日には、与党会派「新多数派」及び野党会派「Chile Vamos」において統一候補を選出するための予備選挙の実施が見込まれている。

3. 外交

(1) 日チリ関係

ア 藺浦外務副大臣のチリ訪問

16日、藺浦外務副大臣がチリを訪問し、ムニョス外務大臣、アボット国家検察庁長官、アンドラーデ下院議員及びコート下院智日友好議連会長らとの会合を行った。ムニョス外相との会合においては、本年日本とチリが修好通商航海条約締結から120周年を迎えることから、要人往来をはじめ、幅広い分野で二国間関係を強化していくことで一致した。

フランスにおける邦人女子学生の行方不明事案について、藺浦副大臣より「ム」外相及び「ア」国家検察庁長官に対し協力要請を行い、チリ側からは、チリ人容疑者の引き渡しに関する全てのプロセスでの全面的な協力を約束する旨の回答があった。

イ アジャレス新駐日大使の任命

10日、バチェレ大統領は新たな駐日大使としてアジャレス大使を任命した。「ア」大使はチリ大学卒業後（法学・社会科学学士。弁護士資格取得）、アンドレス・ベジョ外交官学校を卒業。これまでに駐コロンビア大使を務めたほか、シリア、豪州、スウェーデン及びイタリアに勤務。また外務省では、南米局メルコスール担当室長（1998年）、対外政策総局秘書室長（1999年）、儀典総局次長（2005-07年）、外務省官房総局長（2014-17年1月）等を歴任した。

(2) 対第三国外交他

ア ムニョス外相と国際弁護団との会合

6-7日、ムニョス外相はロンドンを訪問し、チリが国際司法裁判所（ICJ）に提訴したボリビアとのシララ川水資源利用問題に関し、チリ内外の弁護士からなるチリ側弁護団と会合した。チリは昨年6月にICJに対し、シララ川が国際河川であり、チリはシララ川の水資源を利用する権利を有すること、及び、現在チリがシララ川の水資源を利用していることは、国際法に適合したものであると宣言することを求めてボリビアを相手取り本件を提訴した（ボリビアは、シララの水資源はボリビアの湧水であり、チリが利用するのは違法だと主張）。チリは本年7月3日までにICJに申述書を提出し、ボリビアは2018年7月3日までに答弁書を提出する予定となっており、今般のロンドンでの会合において、チリの申述書作成に向けた協議が行われた。

イ オランダ仏大統領のチリ訪問

21日、オランダ仏大統領がチリを訪問した。バチエレ大統領との首脳会談後、両大統領は共同記者発表及び合意文書署名式を行い、4件の合意文書に署名した（①公衆衛生協力に関する趣意書、②文化協力に関する趣意書、③チリ経済省、仏経済省及び仏対外商務局による観光に関する覚書、④教育の協力に関する協定の修正案）。その後、第2回チリーフランス学術・科学フォーラムが開催された。また「オ」仏大統領は、人権博物館訪問、アジェンデ元大統領墓地訪問・献花等を行った。

ウ ムニョス外相によるCELAC首脳会談出席

25日、ムニョス外相はドミニカ共和国プンタ・カナを訪問し、第5回CELAC首脳会談に出席した（注：バチエレ大統領は第6-7州を中心とする森林火災に対応するためドミ共訪問をキャンセル）。一般討論演説では、「ム」外相は、「今我々が経験している、困難かつ不透明な状況において、（CELAC加盟国の）立場を一致させ、一つとなって声を発する必要がある。保護主義（の傾向）に対しては、CELACは市場開放政策を弁護しなければならない。壁の建設に対しては、橋を架けなければならない」と述べた。

エ プライス英国貿易担当大臣のチリ訪問

17日、プライス英国貿易担当大臣がチリを訪問し、ムニョス外相と会談した。会談では英国のEU離脱が取り上げられたが、「ム」外相によれば、「プ」英国貿易担当大臣は、英国のEU離脱後も、チリーEU連携協定の枠組におけるチリー-英国間の現在の合意は維持しつつ、さらなる改善を目指していきたいとの意向を示した。なお、英国はEUの中ではオランダ、スペインに次ぎ3番目の対チリ投資国。